

令和7年9月

◆日根野聖子 選

「子規新報」編集長で、愛媛新聞文芸俳句欄の選者でもある小西昭夫先生が、「遊五人展」というアート作品展を開催されました。言葉以外の表現で遊んでみよう、と、二〇〇八年に俳人五人で始められて今年で十七年になります。毎年五月に松山市内の「キャメルK」 というギャラリーで企画され、今回は、県内外の俳人ら十一名による油彩や写真、パソコン画、立体作品など七十点が展示されました。

会期中には恒例の朗読会があり、小西先生の俳句とコメントの作品「チンピラXI」が披露されました。

「チンピラXI」

小西昭夫

肩書は何にもないが鰻飯

職業欄には無職と書きます。

お終いは線香花火と決めている

日本の夏です。

一粒で元気にシャインマスカット

幸せになります。

大盛りのライスを勤労感謝の日

腹が減っては戦はできません。

熱燗やこの頃猪口を好むなり

ぐい飲みは大きすぎます。

コオロギの翅は鳴くためのみにある

飛ぶためではありません。

前略と書いて林檎を齧りけり

何を書くか考えています。

少年は老いやすくして栗の飯

「少年老い易く学成り難し」とは申しますが。

フランスへ行く話して秋刀魚焼く

嘘であります。

片面を食うて秋刀魚を裏返す

これは本当です。

アーモンドチョコを一粒運動会

お利口にグリコです。

登らねば採れぬ高さに柿たわわ

結局、見ているだけです。

濡れた手をズボンで拭いて秋の暮

今、こんなことをする人はいません。

この店の柿売り切れていたりけり

わざわざ買いに行きました。

今われは抜かれたところ運動会

盛り上がっています。

猫の手に劣っていたり蜜柑摘み

ぼくの家は蜜柑農家でした。

松の内なり少しだけなら昼酒も

口実は何とでもなります。

蕎麦の蕎麦の天ぷら純米吟醸酒

この苦みが好きです。

神の留守奥方の留守昼の酒

奥方のことをカミさんともいいます。

聖夜劇「星その三」の役どころ

幼稚園で劇をするときは児童の数だけ役があります。

花の下一気に伸びてチューリップ

人間の鼻の下ではありません。

口紅の色鮮やかに雪女郎

きっと美人なのでしょう。

水道でよし元日の水うまし

大晦日に飲みすぎたのかもしれない。

客去りし後の日永を持て余す

時間は不思議です。

突然の魔女の一撃春一番

何のことか分かりますか。

(魔女の一撃はぎっくり腰のことです。)

子どもらの口開けて待つぼたん雪

決して美味しいものではありません。

恋猫のその後のことは知らぬなり

鳴いているときはよく分かります。

お雛様省略をして飾りけり

お内裏様とお雛様だけを飾りました。

蟹雑炊インスタントでもよかり

蟹が好きです。

おそらくはお尻の軽い揚雲雀

雲雀はなぜあんなに高く舞い上がれるのでしょうか。

目に涙浮かべて亀の鳴けるなり

これも嘘です。

暁を覚えず蛙の目借時

春に眠たいのは蛙に目を貸したからだそうです。

ゆかしきは鶯餅の鳴かぬこと

ゆかしいというのは上品で優れていることです。

チンピラの大好物は柏餅

鶯餅も好きなのですが、お終いです。